



SDGs未来都市

ふくつ

SDGs未来都市ふくつ
人も自然も未来につながるまちづくり



SDGs (エスディーゼーズ) とは?

SDGsとは、2015年の「国連持続可能な開発サミット」で合意された、2030年までに取り組むべき経済・社会・環境をめぐる世界共通の目標であり、誰一人取り残さない社会作りを目指しています。

右下のアイコンでは、貧困、ジェンダー、エネルギー、働きがい、経済成長、気候変動への対策などの17の目標を示しており、各目標には具体的な内容を示した169のターゲットが掲げられています。

SDGs 未来都市ふくつ

中長期を見通した持続可能なまちづくりのため、地方創生に資するSDGsの達成に向けた優れた取り組みを提案する都市を「SDGs未来都市」として、平成30年度から国が選定しています。

令和元年度は福津市を含む31自治体が選定され、昨年度・令和2年度と合わせて93自治体がSDGs未来都市に選定されています。福岡県内では、北九州市、大牟田市、福津市、宗像市。これらの自治体は、国や他の自治体、企業、教育機関、多様な団体と連携し、SDGsの達成に取り組んでいくことが期待されています。



10年先（2030年）も100年先（2120年）も、 住みよい福津市であるために何が必要だろう

人口が増えると市から
出るごみ排出量や二酸
化炭素量が増加するよ



Problem

地域や学校のみんでゴ
ミや二酸化炭素の課題に
向き合い、できることか
らトライしてみよう



便利な場所に住民が集中する
ので、地域によっては空き家
や空き店舗が増え、活気が失
われてしまうよ



空き家や空き店舗は防犯
防災上危険なため、空き
家にしないよう早めに地
域で呼びかけたり、把握
することが大切だよ



市民の多くが会社に勤め
ているから、漁業や農業
の担い手が不足して、海
や田畑の手入れが行き届
かないよ



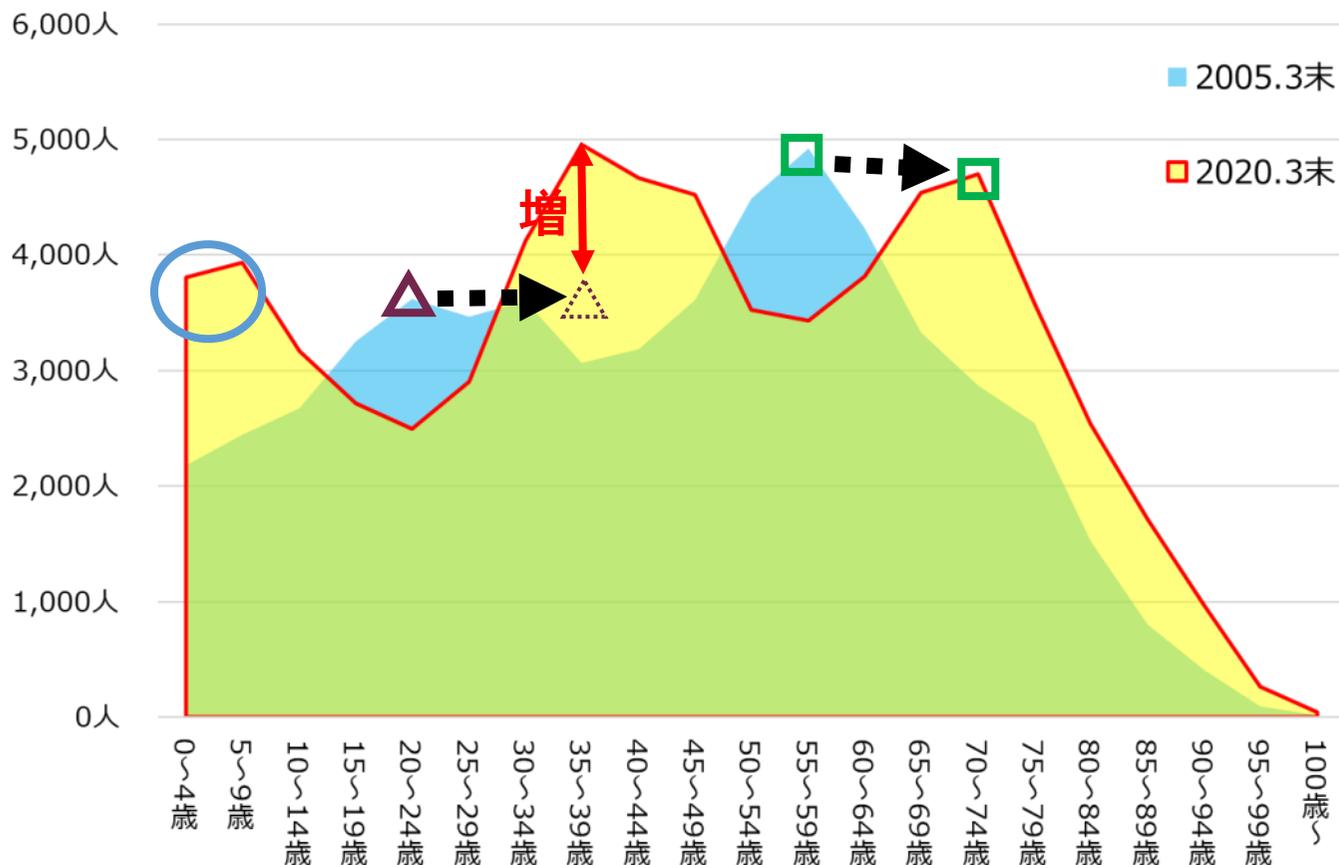
Idea

若い人が漁業や農業も職業の
選択肢として考えられる環境
や社会づくりが必要だよ



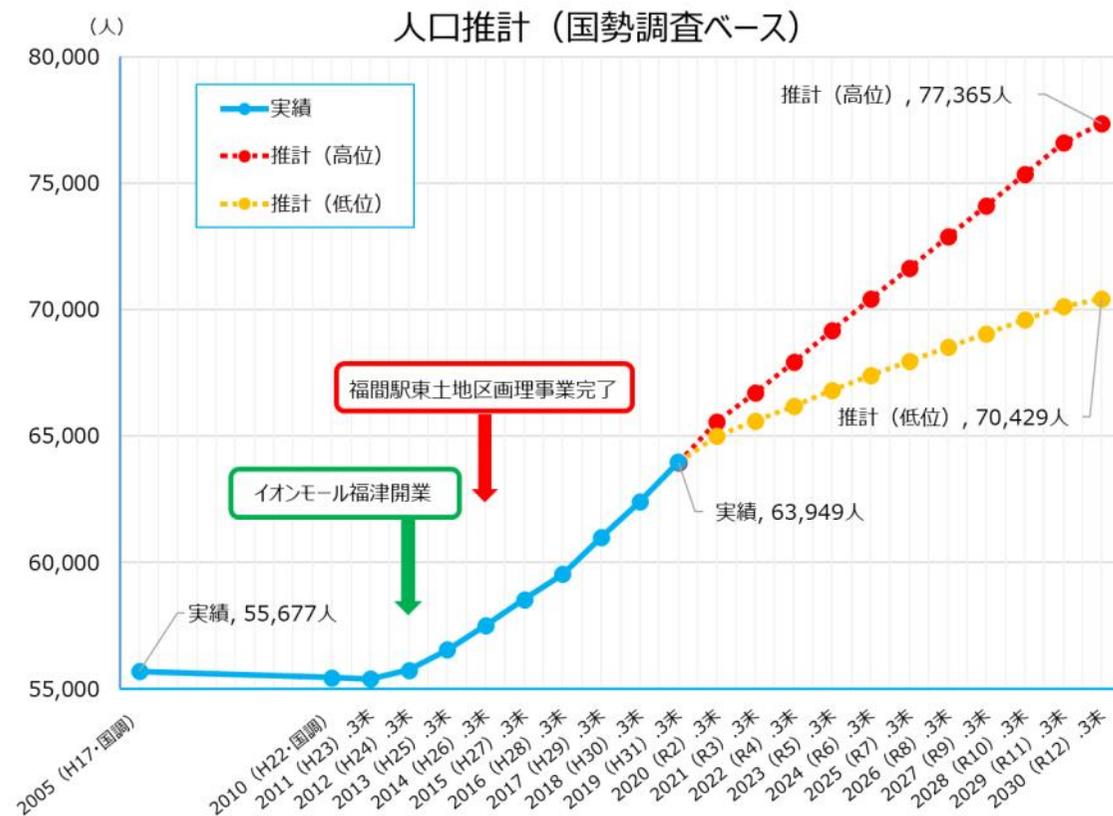
福津市の人口データ

福津市は、2005年3月末から比較して2020年3月末には10,091人増加しました。特に0歳～9歳（○印）はファミリー層の転入と出産増、35歳～49歳（△印）は転入の影響による増加が認められます。一方で、2005年の55歳～59歳の峰（□印）は2020年には後期高齢者としての75歳～79歳の峰を築いています。



(3月末時点)	2005年	2020年	増減
総人口	56,361	66,452	10,091
0～4歳	2,184	3810	1,626
5～9歳	2,442	3934	1,492
10～14歳	2,680	3166	486
15～9歳	3,254	2715	▲539
20～24歳	3,618	2499	▲1,119
25～29歳	3,465	2907	▲558
30～34歳	3,603	4120	517
35～39歳	3,070	4954	1,884
40～44歳	3,188	4668	1,480
45～49歳	3,613	4523	910
50～54歳	4,488	3527	▲961
55～59歳	4,924	3436	▲1,488
60～64歳	4,234	3816	▲418
65～69歳	3,329	4543	▲1,214
70～74歳	2,870	4701	1,831
75～79歳	2,546	3591	1,045
80歳以上	2,853	5542	2,689

日本全体では少子高齢化が叫ばれる中、福津市は2011年以降人口が増えています。人口が増えることによる良い点と課題点は何があるのでしょうか。



良い点

人口増加に伴い、商店や飲食店の出店が増える

子どもの数が増え、市全体が活気にあふれ、にぎやかになる

市の税収や交付税額が増え、市全体の維持管理が行いやすくなる

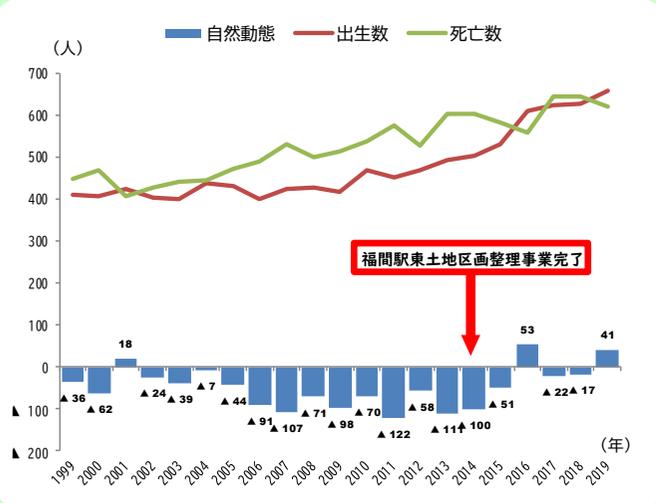
課題点

総人口は増えているものの、生産年齢人口（15～64歳）は減少しているため、税収増は見込めない。

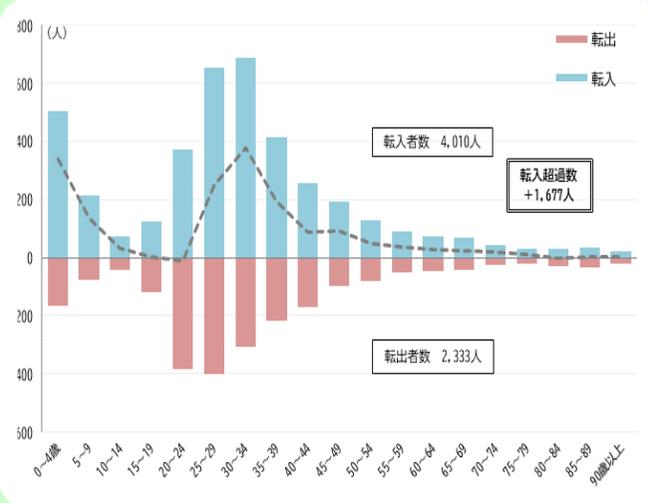
福津市は約22%を耕地※1、約26%を森林※2、漁港を2か所有している。人口は増えるのに担い手となる農水事業者は年々減少している。

地域によって人口・年齢構成に差がある。そのため、耕作放棄地や空き家の増加などは依然課題である。

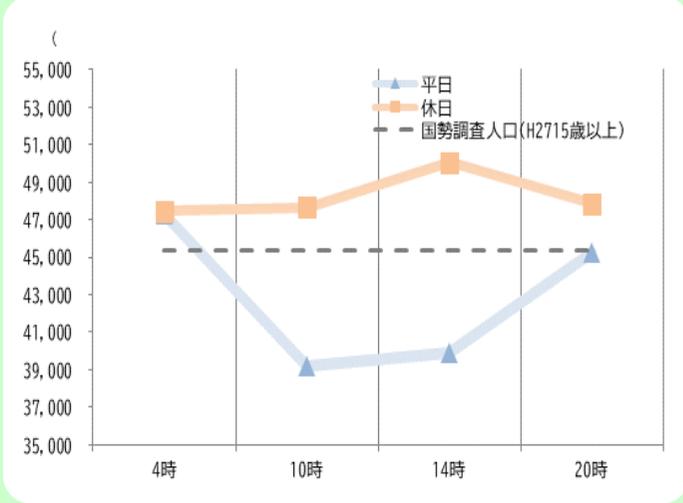
I. 出生数の推移(1999-2019)



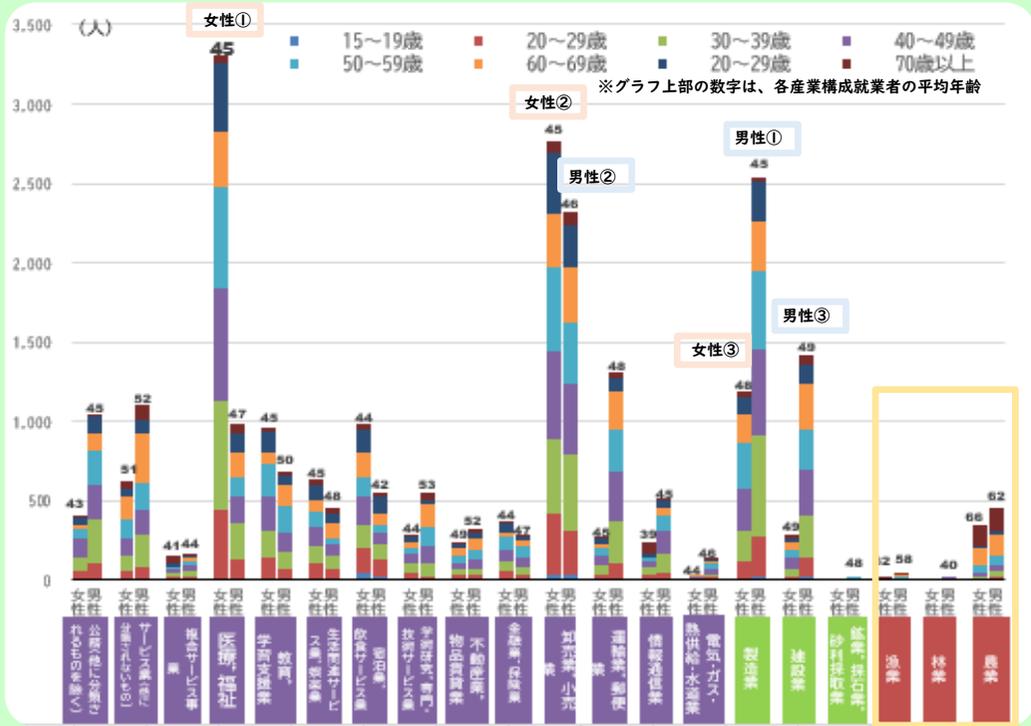
II. 転入出の状況(2018)



III. 流入出の状況(2019.6)



IV. 男女別産業人口(2015)



- ◆ 福津市は、2014年度までを目途とした福間駅東土地区画整理事業の影響もあり、2016年度から自然動態の増加や出生数が死亡数を上回る年度もみられるようになりました（I参照）。
- ◆ 2015年までは20～24歳人口は転出超過でしたが、2016年以降は拮抗値となり、2018年には全体を通して転出超過の年代は見られなくなりました（II参照）。
- ◆ 一方、平日は15歳以上人口8,000人以上が流出するなど、福津市は福岡市や北九州市などのベッドタウンとして機能している一面があります（III参照）。
- ◆ 男女別の産業人口では、女性は医療・福祉、卸売業・小売業、製造業の順で就業者が多く、男性は製造業、卸売業・小売業、建設業の順で就業者が多くなっています（IV参照）。
- ◆ 第1次産業では、漁業就業者48人（平均年齢60歳）、林業就業者1名（40代）、農業就業者769人（平均年齢64歳）と少数高齢化が進んでいます（IV参照）。

SDGs未来都市ふくつでは、恵まれた地域資源を生かした経済活性化、地域活性化を促す人財育成、自然環境の再生と保全、歴史的町並みの保全等をバランスよく進めることで、各地域に持続可能なまちづくりの仕組みと風土が根付くことを目指しています。



経済

福津市の価値ある資源を生かして
経済面を元気づけよう



新鮮美味な地産品



福津市が誇る
白砂青松の景観

- Keyword ●
- ブルーツーリズム
- ラーニングツーリズム
- 社会的ファイナンス

相互連携 相乗効果



幸せのまちづくりラボ
地域の課題解決に向けたプロジェクトの組
成・支援を行うイノベーションセンター

自然環境や歴史的町並みを守り、蘇らせよう

世界文化遺産に登録された
新原・奴山古墳群



- Keyword ●
- 再生と保全
- 空き家再生
- 学び場の提供

津屋崎千軒の歴史的町並み



環境



社会



福津市を盛り上げる人材を
育成して地域を活性化しよう

- Keyword ●
- 担い手育成
- 人材育成と活躍支援

プロジェクトを通じた
地域人材の育成



福津市とSDGsについて

学ぶ出前講座



相互連携 相乗効果

相互連携 相乗効果

令和元年度 第1回ふくつSDGs賞表彰式

ふくつSDGs賞は、「市民共働で推進する幸せのまちづくり」に向けて優れた取組を行うとともに、SDGsの理念をわかりやすく伝え・広げる事例となる個人、企業・団体を表彰するものです。

令和元年度は一般部門8件、教育部門7件、計15件の申請があり、SDGs本部長賞が6件、特別賞が1件選定されました。



市民が進めるSDGs【第1回ふくつSDGs賞 -SDGs本部長賞-】



私は世界を救いたいと思っています。大げさかもしれないけれど、世界を救うということは、世界や日本の課題をそれぞれの地域で解決していけば救えるのではないのでしょうか。世界を救うのは誰だれなのか、おそらく私ではなくて子どもたちなのだろうと思い日々教壇に立っています。

画像1は、福津市にある大峰山の竹林伐採に参加している5年生の姿です。画像2は津屋崎の海水を生徒自身で汲みに行き、そこから塩を作っているところ。画像3は、津屋崎のビニール袋使用量を減らすためにレンタルエコバックを導入する取組を進めていて、レンタルエコバックを置いてもらえそうな交渉先を地図から探している生徒たちの姿です。どの写真も総合的な学習の時間で行われ、生徒自らが環境をテーマに取り組んでいる様子を掲載しています。

私は、学校教育は世界を救うと考えています。ですが、決して子どもたちを利用して世界を救うのではなく、世界を救う気持ちを持つ子どもたちを育てる場であると思っています。私は、SDGsという言葉を教えることもなく、世界の課題を解決してほしいということもありません。私がない何十年も先の世界を子どもたちが救えることができたら素晴らしいと思っています。(令和元年度5年生担当教員 逸見 和久)



津屋崎小学校5年生



画像1 大峰山で竹林伐採する様子



画像2 津屋崎の海水から塩をつくる様子



画像3 津屋崎のビニール袋を減らすための話し合いをする様子

市民が進めるSDGs【第1回ふくつSDGs賞 -SDGs本部長賞-】



福間小学校5年生

コロナに負けるな！

SDGs本部長賞を頂いてすぐ、コロナウィルスの影響で休校になってしまいました。SDGsの取り組みが止まってしまうことを心配しましたが、子ども達は自分にできるSDGsを考えて行動していました。保護者の方の話では家族の会話にSDGsが出てきたりプラスチック製品をなるべく使わないようにしたり。休校中の登校日に自分できるSDGsをまとめた自学ノートを出してくれる子どももいました。

子ども達が行動変容できたのは、福津市の皆さんがもともと環境問題に率先して取り組んでおり、それがSDGsによって、再方向付けされたからではないでしょうか。予測困難な状況が続きますが、誰も取り残されない社会を目指して、福津市全体でSDGsを進めていきましょう。



私たちは、SDGsを総合的な学習の時間で取り扱っています。最初は教師も生徒も初めて聞く言葉なので、どんなものなのかよくわからなかったので、SDGs未来都市に選定された福津市に答えを求めようと出前講座を希望したところ、なんと松田副市長に登壇していただくことになりました。松田副市長の講座では、SDGsに示される「17の目標を達成していくこと」、「自分たちができることからやっていくこと」をわかりやすく教えてもらったことで、SDGsの目標を達成していくためにはどのような課題があるのか、生徒と共に地域に探しに行くことにしました。

生徒たちは、街のいたるところに多くのゴミが落ちていること、海が汚れていることに気が付きました。そして、福津の海岸を毎朝掃除している地域の方やサーフショップの方に出会いました。生徒たちは地域の方から多くのことを学び、その活動や学びに対し、保護者の皆さまも協力してくれました。生徒たちは当初、家族から離れて暮らしている子どもたちが取り残されているのではないかと疑問を持ちましたが、児童相談所の方から話を伺ったところ、彼ら彼女らが取り残されているのではないことを教えてもらいました。

生徒たちは現在、ストローをゴミしないよう、ストローを使わずに牛乳を飲む方法を模索しています。SDGsとは、私たちが常に関わり続けることが大切で、お金があっても取り残されてしまっは幸せとは言えないのではないかと考えています。福間小学校では、今後もSDGsに向かって取組をすすめていきたいと考えています。



画像1 松田副市長による出前講座



画像2 地域の方との海岸清掃



画像3 ストローゴミ削減の模索

市民が進めるSDGs【第1回心くつSDGs賞 -SDGs本部長賞-】



福間中学校

コロナに負けるな！

本年度は新型コロナウイルスの影響で、コミュニティ・スクールの活動は年度当初の計画通りにはできていませんが、10月から少しずつ活動を始めています。

今後、まだまだ気の抜けない状況が続きますが、医療従事者の方々をはじめとするたくさんの方々がこの状況の中でも必死に頑張っておられることを励みにしながら、福間中学校も地域の方々に愛される学校を目指して邁進してまいります。



ここでは、福間中発!福津市未来会議を中心に紹介します。

画像1は、福津市の美しい松林であり、海沿いに暮らす人々の生活環境を守ってくれています。主に、福間郷づくりの方々が中心となり松林の保全活動を行っているのですが、活動者自体がとても高齢化しています。そこで福間中学校では、地域貢献活動のひとつとして、松林保全活動に参加をしています。画像2は、未来会議の事前学習として日本の食品ロスについて学んだときの写真です。日本では毎年600万トンもの食品ロスを出している状況であることを深く理解するため、NPO法人循環生活研究所の方を講師としてお招きし、食品などを堆肥化する段ボールコンポスト等について教えていただきました。画像3は、未来会議当日の様子です。会議では3年生と地域の方が43グループに分かれ、6つのテーマについて熱く語り合い、熱気漂う場となりました。

福間中発!福津市未来会議は、たくさんの地域の方々のご協力を得て成り立っています。福津の未来を担う子どもたちがSDGsに興味関心を持ち、他人事ではなく自分事として行動するきっかけとなったと感じています。最後に本会議に参加した生徒の感想を紹介します。「未来会議を通して、皆で意見を出し合って考えることが重要だと思いました。福津市の未来を担う私たちだからこそ福津市の今後をより良いものにするという姿勢が必要だと思いました。皆で深く考えた経験が未来につながるきっかけになりました。また、まわしよみ新聞やトーク・フォークダンスなど、地域の方と関わる機会が大切だと実感しました。学校での活動が地域の活性化を支える大きな力になっていると思います。少子高齢化が進む現代の日本社会をより明るく作り上げるために、未来会議が福間中から全国に広がればいいと思います。」



画像1 松林保全活動



画像2 段ボールコンポストの学習



画像3 未来会議

市民が進めるSDGs【第1回心くつSDGs賞 -SDGs本部長賞-】



唐津街道畦町宿保存会

コロナに負けるな！

大規模なイベントはできないので、秋定番の最大イベント「唐津街道畦町宿祭り」は1年延期しました。代わりに畦町住民向けのミニイベント(巡回観光馬車・健康生き生きウォーク・バードウォッチング)を10月25日に実施。

そば栽培は新規に春そば作りも加えて、秋そば栽培も順調。「ソバボランティア」として市内外を問わず、「希望者」は、そば作りを体験できる工夫をしています。私たちの活動は<https://www.facebook.com/azematisyuku>でいつでもご覧になれます。

平成24年(2012)5月に発足した唐津街道畦町宿保存会(略称保存会)は、福津市南東の里山「畦町」(人口約600人、戸数約260戸ほどの旧宿場町)で「まちおこし」をしています。コンセプトは「ほっとするまち畦町」づくり。少し前までは、SDGsなどまったく知りませんでした。あれこれと調べていくうちに「これはなーんや、俺らが今までしとることと同じや」とわかり、私たちの活動を知ってもらうためにも、今回の応募に至りました。

画像1は、私たちの「ほっとするまち畦町」づくり活動の原点である「お祇園様という池の修復作業」の様子。子どもの頃は種もみにも使うきれいな池だったが、3、40年前からドブ池になっていた。町おこしのきっかけは、壊れかけた、旧畦町宿の「郡屋」の修復作業で、結局は何もできず「うろちょろ」するだけ。その時、地元のおばあちゃんから「こっちの池を何とかして、昔みたいにきれいにしてくれんね」とお願いされた。10か月くらいかけて「修復」。そしたら畦町住民にえらい感謝され、「ありがたい、ありがたい」の声がいっぱい。「ああ、できることで、みんなが喜ぶことをすればいいんや、それで自分らも元気になる」ということで、活動の自信になった取り組み。

画像2は、畦町で提供している手打ちそばです。6年前、荒れた畑や田んぼにそばを植え、その実を使ってそば打ちを始めた。最初は素人の集まりだったが今では蕎麦の打ち手チームが7人もいて、畦町公民館で食品営業の許可も取得、月に2回程度「そば処畦」を開店。地産地消を実現、「畦町のそばはおいしい、私も食べてみたい」とクチコミで広がっている。

画像3は「たまごフワフワ」です。これは江戸時代の高級料理で、江戸中期の画家・司馬江漢が畦町の間屋(といや)に泊まった際に食したと、彼の『江漢西遊日記』に、絵入りで出ている。それを3年前から畦町の名産にしようと再現、2019年の唐津街道畦町宿祭りでは100円で実演販売。約300食が売完。そのレシピも作っていて、今年度中に、「見れば誰でも作れる」ようにするつもり。

私たち「保存会」の「ほっとするまち畦町」づくりの基本は、こういった誰も知らない「石ころ」みたいなものを拾い、大切に磨いて育て上げる。すると中に「きらりと光るもの」が必ず出て来る。それを見て、住んでいる人や、やってくる人が喜んでくれたり、感動して、元気になる。それで地域が活性化する。活性化したら私たちが嬉しい。その繰り返しで、畦町や福津市に魅力が生まれる。そう信じて、活動を「丁寧にコツコツ」と繰り返しています。

今後一番の課題は後継者。これはなかなか難しい。全国どこでも「まちおこし」でも、それが大きな課題です。



画像1 池の修復作業風景



画像2 畦町産手打ちそば



画像3 たまごフワフワ

市民が進めるSDGs【第1回ふくつSDGs賞 -SDGs本部長賞-】



まちづくり研究会

コロナに負けるな！

まちづくり研究会は、将来のまちづくりへ向け現状の見える化と広報へ向け活動しておりますが、年頭より猛威を振るったコロナウイルスにより、活動や集会を度々休会せざるを得なくなり、HP掲載情報などに影響を受けています。

研究会では、コロナで感染を気遣い帰りたいけど帰れない遠隔地で学び働く子供たちへ向け、通った学校やよく遊んだ場所の風景などを映像化、少しでも帰省した気分を味わって頂きたいとしてHPに掲載を行っています。



この研究会は、福津市にずっと住んでいる方、新しく移り住んでこられた方、現在も市外に住んでいる方で構成される団体で、福津市が誕生して以来、「住みよいまちづくり」を目的として発足しました。住みよいまちの要件には色々ありますが、今回はSDGsの14番目「海の豊かさを守ろう」について特別にピックアップして応募したので、今日は福津市周辺の海の現状の『見える化』に取り組んだ活動を紹介致します。

画像1は、カブトガニ生息地の津屋崎干潟です。干潟の汚濁要素には色々なものがあります。1つは初冬に飛来する野鳥の糞、さらにはこの干潟に流れ込む生活排水等が挙げられます。これらには有機物が含まれ、それを餌として生息する貝類のウミニナはいたるところで群生しており、その数は異常で、有機物が如何に多いかを証明してくれます。またその付近では二枚貝（アサリ）等の生息は見られないことが分かりました。

画像2は、うみがめの繁殖地である恋の浦です。No.1、No.2と囲った場所で水中調査を実施しました。うみがめといえば海藻とクラゲを主食とすることで知られます。この一帯で海藻の状態について調査したところ、コンブ類のワカメ、ガジメなどは見られず、替わって見られたのは、岩礁に群がる紫ウニの群生でありました。研究会は、この紫ウニがワカメやコンブ類の新芽を育つ前に食べてしまうと推測、紫ウニを他海域へ移す、または駆除することで適正量に維持しながら海藻を育てることが豊かな海を育てると考えています。この他にも、当研究会ではHP上で水中写真も含め、現状と研究報告を掲載、海の環境状況の『見える化』と変化の経緯をデータとして残し、海の環境保全に寄与できればと思っています。研究会HP検索は「福津市まちづくり.com」で閲覧できます。



画像1 津屋崎干潟



画像2 恋の浦

市民が進めるSDGs【第1回ふくつSDGs賞 -SDGs本部長賞-】

くらしのサポートセンター サンクス



私たちは、地域のための公民館として、寄り集まれる場所をつくろうと始めました。1枚目の写真は拠点となる建物で、改装前は少しみすぼらしい感じでしたが、ボランティア130人ほどの協力を得て、敷地の整備や内装をすべて住民の手で行いました。費用や備品もすべて寄付で賄い、今でも利用者の助けをもらいながら運営を続けています。

2枚目の写真は、毎週火曜に実施している買い物支援で、あんずの里と青い鳥の協力を得てながら地域の高齢者のために実施しています。これも何かお役に立てないかという思いからはじめ、今年で3年半になる取り組みです。こちらも設営から袋詰め、ご高齢者の送迎まですべてサンクスのスタッフで受け持ち、業者の協力は2名くらいしかありません。雨天時は屋内で開催し、休みは正月休みと台風などよほどの場合だけなので年5回くらいしかお休みしません。ここに来れば、お茶や椅子が用意されているので、地域の方の集まりの場所、雑談の場としてご活用いただいています。

3枚目の写真は若葉コーラスといって、宮司3区が持っているコーラスグループです。平均年齢83歳で、90歳以上が3名くらい在籍しており、介護施設や老人会の夏祭りなどでも活動しています。

サンクスにはカラオケルームがあるので、少なくとも週に3回は利用者同士が歌って踊って明るくしています。また、介護予防講習やボケ防止講習なども、講師をお呼びして実施しています。その他にも、健康体操を月1回、高齢者住宅の草刈りを年20回程度と地域の拠り所としてご活用いただいています。

コロナに負けるな！

コロナ禍では、カラオケルームは5名以内での使用で楽しんでもらっています。その他にサンクスには大広間があるので、そこでは10名以下で対応し、感染症対策に努めています。



画像1 拠点となる建物はボランティアの手を借りて蘇りました



画像2 高齢者の楽しみである買い物支援の様子



画像3 若葉コーラス隊によるカラオケ大会の様子

市民が進めるSDGs【第1回ふくつSDGs賞 -特別賞-】



ふくつ大峰山森づくりプロジェクト

コロナに負けるな！

私たちの活動も新型コロナウイルスの影響で大きく変わった点があります。それは、森の中で過ごす時間が増えたことです。いま、世界中で人々は自然の中での活動を求め、身近な自然環境からの恵みの大切さを再認識しています。

私たちも状況を見ながら徐々に活動を再開し、安全に配慮しながら活動しています。幸いふくつには海岸松林や干潟、山林、河川など身近で重要な自然環境がたくさんあります。身近な自然環境の中で過ごしたり、保全活動に参加してみたいかがでしょうか。



人が手を加えることで維持されてきた二次林、草地、田畑、ため池、そして人々が暮らす集落によって形成されるランドスケープは里山と呼ばれています。私たちが活動を行っている大峰山も、長い間、地域の人々が生活の中で利用・管理してきた里山です。しかし、私たちの暮らし方が大きく変わり、生活の中で自然資源を利用する機会が減ったことで里山環境は変わってしまいました。

私たちは自然環境がもたらす恩恵、すなわち「生態系サービス」を受け取りながら暮らしています。SDGsは、社会・経済を持続可能にしていくためにわかりやすい指標なので、身近な自然環境が提供する多様な生態系サービスを考えたまちづくりに活かすことができると考えています。

私たち「ふくつ大峰山森づくりプロジェクト」は、里山の新しい利用・資源循環を考えながら森づくりの活動に取り組んでいます。この取り組みは2017年に第2次福津市環境基本計画・生物多様性ふくつプランが策定されたことをきっかけに、国立大学法人九州工業大学環境デザイン研究室、暮らしの間屋、放課後クラブ、三粒の種の協働でスタートしました。

過去とは暮らしが異なる現代でも、人々が関わることで身近な森から多様な「生態系サービス」を受け取ることができます。これからも私たちは大峰山での森づくりを通して、海と陸の豊かさを守るまちづくりに協働で取り組んでいきたいと思っています。



活動の対象地、大峰山



大学・地域が協働でこれからの里山と人のかかわりについて話し合う



子どもから大人までが参加して竹伐りや伐採した資源を活用した活動

表彰は逃しましたが、素敵な取り組みがたくさんありました。

《活動概要》

福間海岸や西郷川の自然環境を調査することを通して、福間のまちの自然環境に目を向け、そこに住む生き物や環境を大切にしようとする態度を養っている。



《活動概要》

老人会は、会員が集まりおしゃべりする機会を作るが、これだけでは会員外や入りづらい。地域に不可欠な老人会のはずだが、惰性のままに組織老化を招いた。老人会が、子ども会や幼児らとも交わり若さをもらい、大人グループとの援助も得たい。



《活動概要》

長崎県立大・下関市立大におけるフェアトレードを中心とするSDGs活動。



《活動概要》

発達障がいを持つ子どもの父親が主体となり、身近な事例に基づいた情報共有や問題解決を目指す会。障がいを持つ子の父親は母親以上に子育ての場において孤立していることが多い。それぞれの父親自身が感じている思いなどを共有し、母親とは異なる父親ならではの視点で行動することで、よりよい社会の実現を目指す。



《活動概要》

現在の世界の環境問題の全てを解決できるといわれているモリंगाを栽培している。



《活動概要》

校庭のイチョウから採れる銀杏を祭りで販売したり、アルミ缶を回収したりして、ユニセフに毎年3~4万円の募金を行っている。



《活動概要》

福津市内の子ども~成人、ご年配の方までを対象にスポーツ教室を実施。運動の得意苦手や経験の有無、障がいの有無に関わらず、参加を希望する人全員が参加できる教育づくりをしている。



《活動概要》

廃棄されようとしている照明器具を有効活用し光源をLED化するリモカ工法に力を入れており、「省予算・省電力・省産廃・脱水銀・景観保全」をコンセプトに活動している。



住みよいまち、福津市を一緒につくり、守りましょう。

令和元年度選考委員（五十音順、敬称略）



福岡教育大学教授
石丸 哲史



福岡テンジン大学学長
岩永 真一



西日本シティ銀行
執行役員広報文化部長
小湊 真美



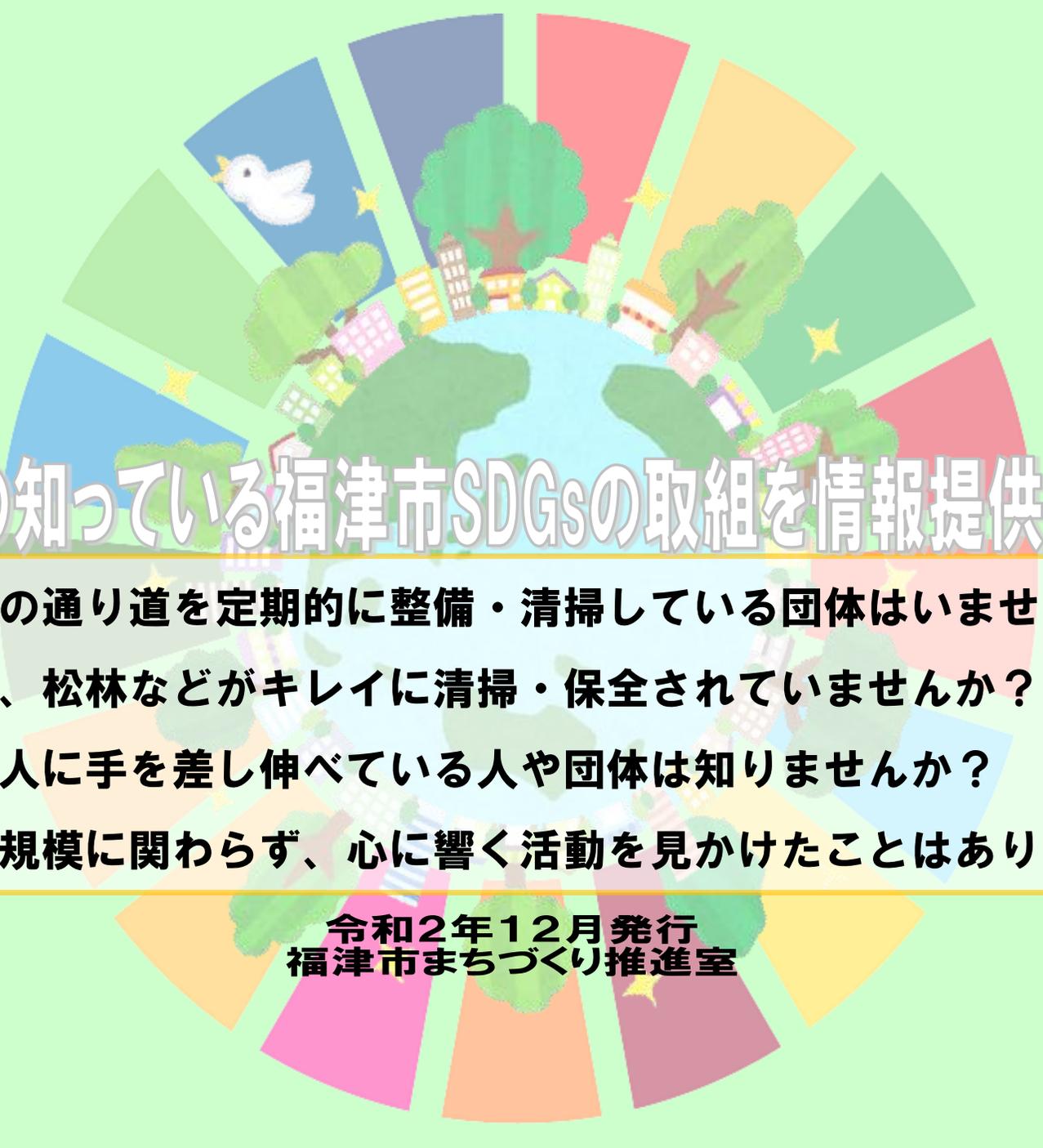
九州大学学術研究員
下村 萌



（公財）地球環境戦略研究機関
プログラムディレクター
林 志浩

選考委員の一人としてお祝い申し上げます。令和元年度の応募に際し、お送りいただきました申請書から見て取れる皆様の活動には、本当に優劣がつけがたく、選考委員は大変苦慮いたしました。この表彰の目的は単なる順位づけではなく、SDGsの達成に向けたさらなる発展、活動をなさっている皆様の交流の場、あるいはきっかけではないかと思っています。

今回一般部門と教育部門それぞれで5つの評価基準を基に、申請書の字面だけを追うことなく選考委員が一堂に会し、活動の報告から見られる共感や情熱などの重要性に鑑み、素晴らしいと感動したものを選ばせていただきました。一般部門において受賞なさった方々は、長い時間軸をお取りになり、地域との共生を視野に入れて、誰一人取り残さない意識のもとで取り組んでおられました。また、教育部門で受賞なさった学校の皆様は、まさにESD「持続可能な開発のための教育」を実践され、グローバルな視野を広げながらも、まずは足元から取り組む姿勢が子どもたちの活動から見て取れました。受賞なさった方々の中には、SDGsが発表された2015年以前から取り組まれていた活動があり、持続可能な社会作りを目指されて来られたことが、この度のSDGsによって意義あるものであると再評価されたともいえるのではないのでしょうか。その意味では、皆様が応援してくださったことでSDGs未来都市である福津市の価値がさらに高まったとも言えましょう。最後に、今後も皆様の活動の更なるご発展を祈念いたしますとともに、このことが福津市の「幸せのまちづくり」をさらに牽引することを期待いたしまして、選考委員の講評とさせていただきます。（石丸哲史）



あなたの知っている福津市SDGsの取組を情報提供してください。

いつもの通り道を定期的に整備・清掃している団体はいませんか？

海や森、松林などがキレイに清掃・保全されていませんか？

困った人に手を差し伸べている人や団体は知りませんか？

活動の規模に関わらず、心に響く活動を見かけたことはありませんか？

令和2年12月発行
福津市まちづくり推進室